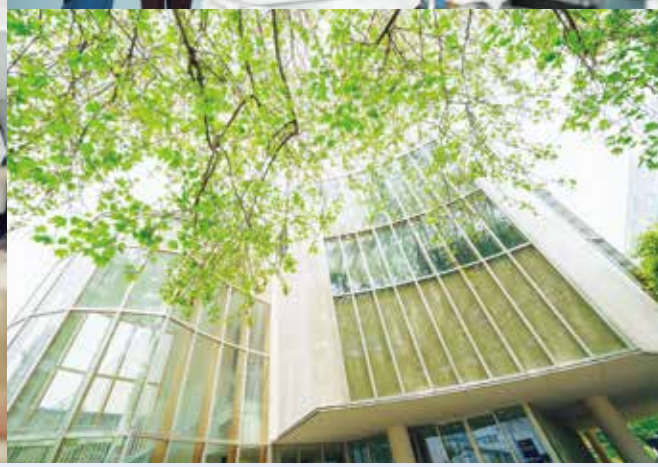
TOHOKU UNIVERSITY SCHOOL OF MEDICINE 2027

SCHOOL OF MEDICAL SCIENCES
SCHOOL OF HEALTH SCIENCES



東北大学医学部 2027
医学科 ｜ 保健学科

TOHOKU UNIVERSITY

真の医学を志す皆さんへ

東北大学医学部は1872年に「宮城県立医学所」として設立され、今年で154周年を迎えます。また、国立大学医学部としては、1915年の東北帝国大学医科大学の設立から111周年となります。本医学部は、この100年を超える歴史の中で、「研究第一」「門戸開放」「実学尊重」の3つの建学理念のもと、優れた医学研究者を数多く輩出し、世界に誇る研究成果を生み出してきました。すなわち、研究を第一の使命とし、医学部では100を超える研究室が設置され、最先端の医学研究を推進しています。門戸開放においては、戦前の大学として唯一、女性や師範学校卒業生を受け入れた歴史を有し、我が国におけるダイバーシティ推進の先駆けとして高く評価されています。そして現在もなお、分け隔てのない医療の実践を使命としています。実学尊重の理念に基づき、人類と社会に貢献する研究成果を創出し、新たな社会的価値を生み出し続けています。これら3つの理念を柱として、教育・研究・医療を最高レベルで推進していることが本医学部の最大の特長です。

皆さんは高校までの学習で多くの知識を学び、その成果を試験で評価されてきたことでしょう。しかし、皆さんが学んだ知識というのは、過去にすでに明らかにされた事実の理解です。知識の習得それ自体は学問の出発点ではあっても、学問そのものではありません。学問とは、正解が存在するかどうかも分からない未知の問いに向き合い、新たな知見を獲得するための科学的営みです。医学とは、人体の正常と異常の仕組みを解明し、そこに潜む法則を発見することで、人類の健康を守り、疾患の予防・診断・治療へと結び付ける科学です。東北大学に入学する皆さんには、医療従事者としての資格を得ることにとどまらず、真の「医学」を主体的に学び、探究して欲しいと願っています。

東北大学は国際卓越研究大学の第一号として採択されました。これは我が国の研究力を世界最高水準へと引き上げることを目的とした国家プロジェクトです。採択大学は25年にわたり国から大規模な支援を受け、世界トップレベルの研究大学となることが期待されています。このような挑戦のただ中にある東北大学で医学を学び、次世代の医療と医学研究を牽引するリーダーを目指してみませんか。

東北大学大学院医学系研究科長・医学部長
石井 直人 Ishii, Naoto

1989年 東北大学医学部卒業
1989年 東北大学附属抗酸菌病研究所小児科学教室入局
1995年 東北大学医学部細菌学教室助手
2003年 東北大学大学院医学系研究科免疫学分野准教授
2009年 同 教授
2023年 東北大学大学院医学系研究科長、医学部長に就任、現在に至る

沿革

医学部医学科

1817年（文化14年） 仙台藩が藩の学問所「養賢堂」から「仙台藩医学校」を独立させ、同時に施薬所（現在の東北大学病院に相当）を設ける

1872年（明治5年） 宮城県立医学所に改組され、医学部同窓会（艮陵同窓会）が同年を創立の年と定める

1907年（明治40年） 東京、京都に次ぐ第3番目の帝国大学として東北帝国大学が設立

1915年（大正4年） 文部省令第10号により帝国大学医科大学として設置

1949年（昭和24年） 東北大学が国立学校設置法により新制大学となる

2015年（平成27年） 東北大学医学部開設から100周年

北斗七星になぞらえて

東北大学設立の直接の基礎となった東北帝国大学は、東京、京都に次ぐ第3番目の帝国大学として、明治40年（1907年）に創立された。この時の開学の祝賀歌は、この大学を天の中枢を指す北斗の姿になぞらえて、東北の光と讃えている。すなわち、北斗七星には、北極星の様な不動の真理を求め、さらに広く世人の道しるべとなろうとする本学の理念が象徴されている。

ロゴマーク

詳しくはこちら

医学部保健学科

1913年（大正2年） 4月、附属医院看護婦養成所（県立宮城病院看護婦養成所を移管）を設立

1915年（大正4年） 医科大学開設に合わせ、医科大学附属医院看護婦養成所に改名

1919年（大正8年） 医学部附属医院産婆養成所が開設

1945年（昭和20年） 附属医院厚生女学部の設置

1951年（昭和27年） 医学部附属看護学校・医学部附属助産婦学校を設置

1953年（昭和28年） 医学部附属診療エックス線技師学校を設置

1962年（昭和37年） 医学部附属衛生検査技師学校を設置

1973年（昭和48年） 上記を医療短期大学部として統合

2003年（平成15年） 医学部保健学科を設置

往診医携帯小道具

タイガー計算機

解体新書

Torsion Balance

目次

School of Medical Sciences

医学科 …… 03

カリキュラム・ポリシー（抜粋） …… 05
ディプロマ・ポリシー …… 05
学びの流れ …… 06
留学 …… 09

School of Health Sciences

保健学科 …… 13

カリキュラム・ポリシー（抜粋） …… 15
ディプロマ・ポリシー …… 15
看護学専攻 …… 16
放射線技術科学専攻 …… 17
検査技術科学専攻 …… 18
進路 …… 21

年間行事・カリキュラム予定 …… 12
修学費と奨学制度 …… 22
医学部内の教育・研修施設 …… 23
クラブ・サークル活動 …… 24
入試情報 …… 25

医学部 医学科

School of Medical Sciences

世界トップレベルの環境で
最先端医療・医学研究を体験し、
グローバル社会で自立する
明日の医療を担う人材を目指します。

教育理念

東北大学医学部医学科は、教員と学生相互の協調により強固な教育基盤を構築し、医学・生命科学の根元を解明する研究および教育を実践し、豊かな人間性と旺盛な探求心を育み、人類の健康と福祉に貢献する指導的高度専門職業人を育成する。

教育目標

東北大学医学部医学科の学生は、将来、医学・医療の様々な領域において指導力ある医師・研究者となるために、6年間の医学部教育において6つの教育目標を達成する。

1 **プロフェッショナリズム**
医師としての基本的な素養と習慣、倫理観を身につける。

2 **医学知識**
医学の根幹となる基礎医学・臨床医学の理解を深め、それらを統合し応用する能力を身につける。

3 **コミュニケーション**
医師としての基本的な対人関係能力を身につける。

4 **診療技能**
患者情報の収集と病態の推論・判断・対応を適切に行うために、臨床技能と医療安全の基本を身につける。

5 **科学的探究**
医学における未解決問題を見出し、科学的理論と方法により解決に取り組む能力を身につける。

6 **地域と世界における医療**
地域・国・世界の医療を俯瞰し、健康・疾病の動向と保健医療システムを理解する。

医学科長　高瀬 圭
Takase, Kei

知を楽しみ、医学・医療の礎に

医学の急速な進歩の中で、優れた医療と創造的医学研究を行っていくには、幅広い好奇心と飽くなき探求心を持って、学びを楽しみ、意欲を持ちつづけることが必要です。これは、医学研究を行う場合のみではなく、臨床の第一線に身をおいている期間においても、最も基本的で大切なことです。基礎医学を学ぶと、意外に早い段階で「未だ分かっていないこと」があることを認識し、臨床に触れると、現在の「医療の限界」を感じることでしょう。医学が進歩すればするほど、その先の「未知」や「解決すべき問題」は増えていくようにすら見えます。誰も気づかなかった現象や原理を発見する機会は医学研究の其処此処にあり、また、臨床を知るほどに新しい治療法を開発する使命感が湧いてきます。

医学科での6年間を通じて、全人的医療のための幅広い教養と実践的医学を学ぶとともに、知の楽しみ方を身につけ、真理を探究する心を涵養し、我が国の医療、医学研究、さらには科学的発展の礎となっていただくことを望みます。

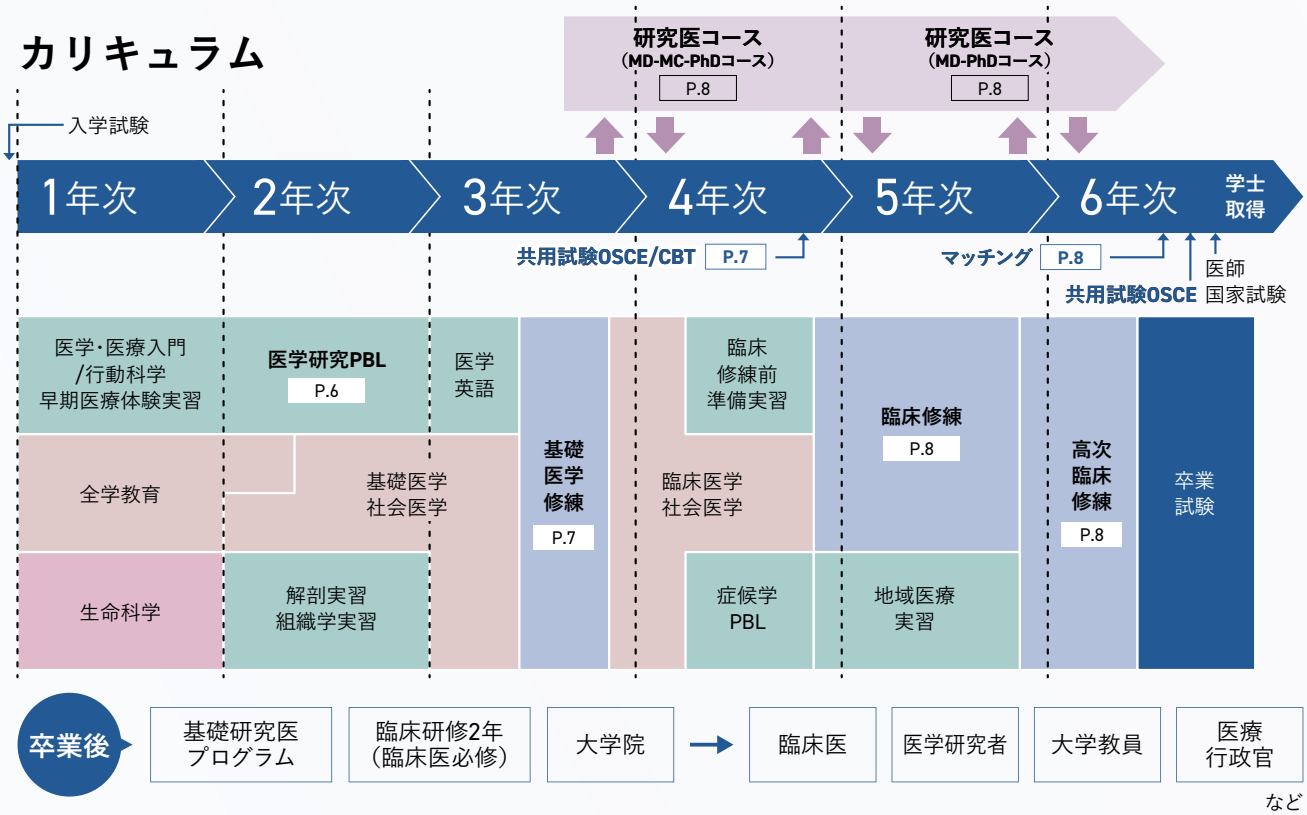
医学部医学科のカリキュラム・ポリシー（抜粋）

1 1、2年次は全学教育科目として幅広い一般教養科目と専門教育に活用可能な科目を提供する。1年次より専門教育科目を開始し、医療人、医学研究者として必要な基本的知識・技能・態度を6年間で段階的に修得させる。

2 研究第一の理念に則り、長期に亘り研究に従事し成果を発表する期間を設ける。医学研究PBL、基礎医学修練、高次臨床修練によって、医療リーダーや医学研究者として必要な能動学習・自己研鑽の技能と態度の涵養をはかる。

3 学習成果の適正な評価と個別フィードバックを行い、学習者の内省・自己啓発と能力開発を促進する。

カリキュラム



医学部医学科のディプロマ・ポリシー

医学部医学科では、定められた全科目（全学教育科目、専門教育科目）を履修し、6つの教育目標に基づいた能力を有する学生に学士（医学）の学位を授与する。

1 プロフェッショナリズム
医師としての基本的な素養と習慣、倫理観を身につけている。

2 医学知識
医学の根幹となる基礎医学・臨床医学の理解を深め、それらを統合し応用する能力を身につけている。

3 コミュニケーション
医師としての基本的な対人関係能力を身につけている。

4 診療技能
患者情報の収集と病態の推論・判断・対応を適切に行うために、臨床技能と患者安全の基本を身につけている。

5 科学的探究
医学における未解決問題を見出し、科学的理論と方法により解決に取り組む能力を身につけている。

6 地域と世界における医療
地域・国・世界の医療を俯瞰し、健康・疾病の動向と保健医療システムを理解している。

1年次

全学教育科目の開始

1年次は全学教育で幅広い教養を身につけるとともに、専門教育の基礎となる3科目類から構成される科目も履修します。全学教育科目には「生命科学」の講義もあり、必修科目として医師として必要な人体の生物学を学びます。

医学専門教育科目の開始

1年次の専門教育科目として「医学・医療入門/行動科学」があります。これは複数のテーマからなるグループ学習・実習・講義で、1年間続きます。例えば少人数ワークショップでは、医師として必要な職業倫理、患者の権利や利益に関する基本原則などを自ら考え、グループ内、グループ間で議論します。早期医療体験実習では、血圧測定、心肺蘇生法、車椅子介助や高齢者介護の基本スキルを身につけた後に医療・介護施設を訪問し、実際の現場を体験します。また東北大学病院内では様々な職種のスタッフが医療に深く関わっていることを見聞し、チーム医療の重要性を認識します。医療コミュニケーション実習では、いくつかのテーマで模擬患者さんを対象として医療面接のトレーニングを行います。また、希望者には東日本大震災の被災地の現状を視察する実習も行われます。
後期からは、専門科目の中の「解剖学・生理学序説」「医化学」「免疫学」「遺伝学」が始まります。

Pick Up Curriculum

研究室取材訪問

新入生には、入学後間もない5月～6月に、研究室を訪問し研究テーマなどを取材する機会を用意しています。続いて、7月までに医学研究に不可欠な遺伝子組換えや実験動物の取扱に関する講習を全員が受講し、様々な研究に参加する準備が整います。これをきっかけに研究室に通い始め、研究に着手する1年生もいます。

2年次

解剖実習の開始

約3カ月にわたり、解剖実習が行われます。解剖実習は単に人体の肉眼的構造を知識として習得するだけではなく、献体された方々と献体に深い理解をくださったご遺族に対する感謝の気持ちや、社会の人々の期待に応える自覚を持つことによって、将来医師に進む上での大きな精神的教育にもなります。
また1年次から続く専門科目として「生理学」「組織学」「発生学」「薬理学」「病理学」「微生物学」が始まります。
またこの学年では「医学研究PBL」が行われます。PBLとはProblem-based learning（問題解決型学習）の略で、医学のさまざまな最先端のテーマについて、自ら問題点と学習項目を発見し、グループによる討論・発表を行います。

Pick Up Curriculum

医学研究PBL

学生はいくつかの先進的な医学研究に関するテーマから最も興味を持ったものを選び、初めに教員によるミニレクチャーを聴講します。その後、少人数のグループで課題を抽出して仮説を立て、その仮説を検証するために必要な情報を自ら収集し、最後に発表と討論に臨みます。これらの過程を通して、学生は将来、医学研究を実践するために必要な探究心、問題抽出能力、柔軟な思考を涵養します。

3年次　基礎医学修練の実施（研究室配属）

3年次には、社会医学系専門科目として「公衆衛生学」「衛生学」「法医学」に加え「医の倫理学・社会学」が始まります。また4月から「医学専門英語」としてE-learningと医学英会話のグループ学習を行います。
夏休み明けには、「研究第一」を建学理念とする東北大学の特徴である、「基礎医学修練」が行われます。各基礎系・社会医学系分野および基礎研究も実施している一部の臨床系分野に、学生が研究者として所属し、そこで18週にわたって研究を行うというものです。中には海外の研究機関で基礎医学修練を行う学生（25名程度）もいます。そして最後にその成果を口頭あるいはポスターを用い、学会形式で報告・討論を行います。なお、冬期休暇が明けた後、臨床系専門科目の講義が始まります。

Pick Up Curriculum

基礎医学修練

複数の医学部でも学生の基礎系分野配属は行われています。しかし、本医学科で行われている修練は他大学にはない、特記すべき点があげられます。即ち、1)修練期間中は月曜から金曜まで、2)その間は朝から夕方まで、フルタイムであること。 3)配属分野は学生の希望をできるだけ優先し、4)各分野4名程度の少人数教育であること。 5)分野によっては、ある期間、海外での修練も可能であり（毎年25名近くが海外研修を体験）、6)一部の成績優秀な学生には奨学金によるサポートがあること。 7)多くの学生が研究成果を発表しますが、その運営は学生主体であり、8)発表者の中から優秀者の表彰があることです。

4年次　臨床系専門教育

この学年では、臨床実習を開始するために必要な臨床に関する医学的知識を習得するだけではなく、臨床的な技能と態度を身につけます。臨床分野は多数の診療科に分かれています。しかし人の病気は一つの診療科だけに限られるわけではありません。また、病気の徴候は人によって様々であり、それぞれの専門性だけに頼ると、診断や治療の遅れにもなりかねません。そこで本医学科ではつながりの深い複数の診療科をとりまとめ、それぞれのブロック別に講義と試験とを実施します。4年生は全てのブロックの試験に合格した後、改めて2種類の全国医学部共通の試験（共用試験）を受け、この合格をもって、「臨床実習生（医学）」が付与され、次の臨床実習に進むことになります。

Pick Up Curriculum

臨床修練前準備実習

全国医学部共通の試験（共用試験）では医学的知識を問うCBT（Computer-based testing）の他に、実際の臨床技能と態度を測る客観的臨床能力試験OSCE（Objective structured clinical examination）が行われます。従前の医学教育は医学知識重視型でしたが、現在では医学生のうちから医療面接や身体診察などの基本的な臨床技能と態度の習得が重要視されています。そこで本医学科では臨床修練がスタートする前に、8-9名のグループに分かれ、ローテーション形式の実習で、臨床実習に参加するために必要とされる技能と態度をしっかりと習得します。

5年次　臨床実習生として診療に参加

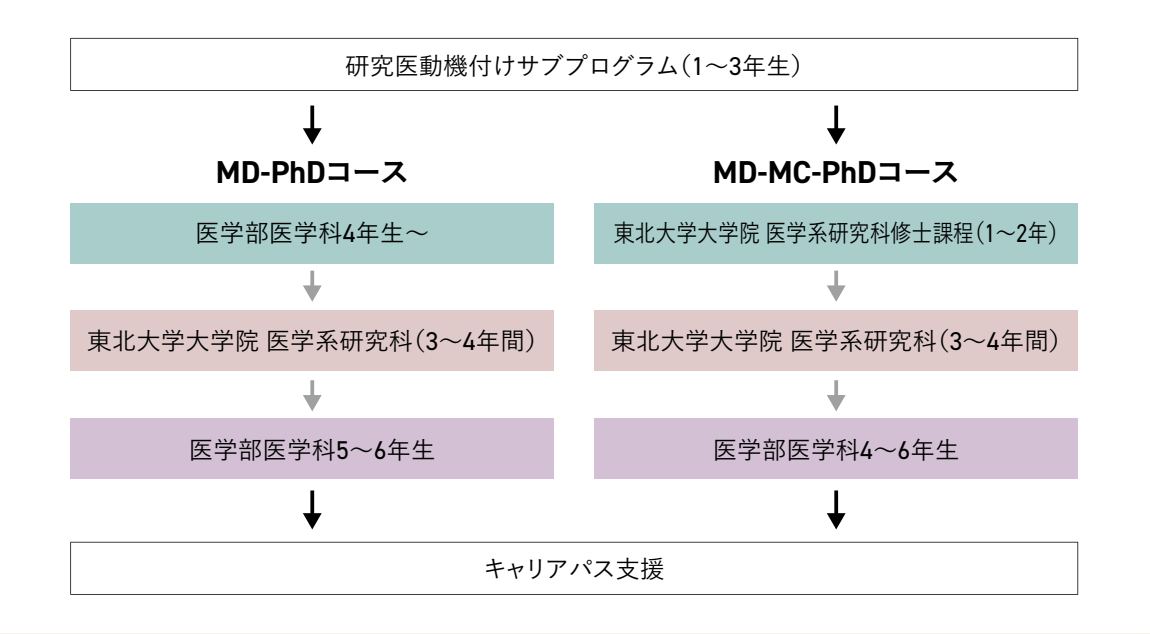
4年次後半から臨床修練(臨床実習)が開始され、以後の4年次と5年次は臨床修練に費やされます。
この期間、多くの診療科(一部は選択)をローテートします。大学病院では、一つの診療科は複数の医療チームから構成されていることが多いのですが、原則、その一つに所属し、患者さんの診察、指導医へのプレゼンテーション、診断・治療方針に関してのディスカッションを通じ、診療参加型臨床実習を行います。
診療科によっては、地域の病院への派遣も行われます。なお、カリキュラム外の企画として、東北大学と関連の深い病院が多数参加する臨床研修病院説明会が、主として5年次と6年次の学生を対象として開催されます。

6年次　高次臨床修練で研鑽

医学科6年生は希望する診療科に4週間単位で配属になります。
学生は各科の医療チームの一員となって診療に従事します。また、交換留学制度等により海外の大学・医療機関での実習も可能です。
多くの医学生は、今後進みたい診療科を念頭に入れて選択することが多いようです。なお、この高次臨床修練の期間の間に臨床研修マッチング登録を行い、最終的な研修病院先は秋に決定されます。
6年次後半は、卒業試験を経て医師国家試験への準備期間となります。
卒業試験では共用試験臨床実習後OSCEも行います。

研究医養成の取り組み ー研究医養成プログラムー

東北大学では、医療の発展に寄与するため研究医を養成すべく、研究医養成プログラムを実施しています。
東北大学大学院医学系研究科では、「研究医養成プログラム」にもとづき、医学研究を志向する医学部医学科学生に対し、早期に研究を発展させる機会を与えることによって、医学・医療の急速な進歩と社会情勢の変化に対応できる若手研究者を養成することを目的とした研究医コース(MD-PhDコース)と、基礎医学修練から切れ目なく継続的に研究を発展でき、海外留学中での受験や長期間の海外での研究が可能な研究医コース(MD-MC-PhDコース)を設定しています。



留学

学生の学習や研究の可能性を広げる場をつくります。

Study Abroad

国際化推進と英語コミュニケーション能力の開発

医学科では教育目標として6つの領域を定め、その中に「コミュニケーション」と「地域と世界における医療」が含まれます。具体的な到達目標（アウトカム）としては、「英語で医学・医療に関するコミュニケーションができる」、「地域から世界規模までの疾病の動向を説明できる」等を掲げています。

このアウトカムを達成するため、6年間のカリキュラムに、英語コミュニケーション能力開発プログラムと海外留学の機会が設けられています。3年生の4月から行う医学英語の授業では、外国人講師による少人数グループ英会話と、医療英語専用のe-Learningソフトを用いて、国際人としての英語コミュニケーション能力を高めます。英語で患者さんを診察するトレーニングと能力評価の実技試験も組まれています。3年生の夏に始まる研究室配属では、例年25人前後が北米、アジア、ヨーロッパ、オーストラリアなどに留学します。トップレベルのラボで最長で5か月に亘って最先端の研究に打ち込み、帰国後は「基礎医学修練発表会」において英語で発表を行います。優れた成果を上げ、研究成果を国際学会や論文に発表する学生も少なくありません。また、次年度の4月には新入生に向けて「海外留学報告会」で留学体験を発表してもらい、1年生も2年後の留学を考える機会としています。

6年生で24週間行われる高次臨床修練では、同じく25人前後が4週間海外留学し、現地の医学生とともに臨床実習を行います。疾患や医療制度の異なる海外で異文化に接しながら行う実習は、とても有意義な経験です。留学から戻った6年生は、秋に4年生対象の「高次臨床修練海外留学報告会」を開催して、後輩に体験を伝えます。

主な留学先

アメリカ

国立衛生研究所（NIH）
ヴァンダービルド大学
カリフォルニア大学サンフランシスコ校
サンフォードバーナムプレビス医学研究所
サンフランシスコ総合病院
ジョンズ・ホプキンス大学
ハーバード大学
ハワイ大学
マサチューセッツ総合病院
ミシガン大学
メイヨークリニック
イェール大学
スタンフォード大学
コロラド大学
ワシントン大学
シカゴ大学

イギリス

エクセター大学
サウサンプトン大学
リーズ大学
バース大学
ダンディー大学
ロンドン大学

オーストラリア

グリフィス大学
西オーストラリア大学
メルボルン大学
シドニー大学

ドイツ

エッセン大学
マックスプランク高分子研究所

タイ

タマサート大学
チェンマイ大学
マヒドン大学

フランス

ロレーヌ大学

カナダ

トロント大学
マギル大学

フィリピン

サンラザロ病院
熱帯医学研究所（RITM）

シンガポール

シンガポール国立大学

台湾

台北医学大学

香港

香港大学

韓国

サムスンソウル病院

オランダ

マーストリヒト大学

ノルウェー

ベルゲン大学

スイス

チューリッヒ大学

スウェーデン

カロリンスカ医科大学

留学参加レポート

留学先　フィリピン／東北大学・RITM 新興・再興感染症共同研究センター

参加期間　2025年12月1日～12月12日

医学科4年　北嶋 僚大さん

［宮城県仙台第二高等学校出身］

私は3年次の基礎医学修練の中で、研究で用いた検体がどのように採取されているのかを身をもって知ることを目的としてフィリピン共和国へ行き、検体の処理や解析を行っているTohoku-RITM Collaborating Research Centerやビリラン島を訪問しました。現地の病院を訪問した際は人手や設備の不足の他、患者さんが自分の名前を書くことが出来ないなど日本とは異なった問題を抱えているということを目の当たりにしました。また、フィールドにおける研究活動も見学しました。患者さんのインフォームドコンセントを取ったり、家族構成や社会的地位などの質問をしたりした上で、検体を採取して日本に送るという過程を実際に見ながら説明していただきました。研究活動の大変さや自分が扱っていた検体の重要さを体感し、非常に良い経験になりました。都市部と郊外での居住環境の差や日本との文化の違いなど、医療以外の側面でも多くのことを体感しました。現地の方々はとてもやさしく、夕食にも招いていただくなど交流することができて楽しかったです。2週間という短い期間でしたが研究への理解だけでなく、自分自身のコミュニケーション能力やフィリピンの文化への理解も深めることができました。今回の留学の経験を今後の学業や将来の進路にいかしていきたいと思います。

留学先　アメリカ ハーバード大学医学大学院

参加期間　2025年10月14日～11月14日

医学科4年　千葉 美耶さん

［宮城県仙台第一高等学校出身］

私は3年次の基礎医学修練期間中に、アメリカのHarvard Medical SchoolおよびBrigham and Women's Hospital に約1か月間留学しました。留学先の研究室では、ALS をはじめとする神経変性疾患の病態形成に関与すると考えられている「ストレス顆粒」をテーマとした研究が行われており、慢性ストレスと翻訳制御機構に関する最先端の知見に触れることができました。実験手法の習得に加え、得られたデータの解釈や仮説構築といった研究の思考過程を、日々のディスカッションを通して学びました。また、研究室には国籍や専門分野の異なる研究者が集まっており、ランチタイムやミーティングでの会話を通して、英語で自分の考えを伝え、議論する機会に多く恵まれました。留学当初は英語に不安もありましたが、積極的に関わることで、研究だけでなく価値観や考え方の違いにも触れ、視野が大きく広がりました。休日には美術館やツアーに参加し、ボストンの歴史や文化にも触れることができました。研究と生活の両面で異なる環境を経験したことは、日本では得られない刺激に満ちており、医学を学ぶ上での姿勢やモチベーションを高めるきっかけとなりました。この留学で得た学びや人とのつながりは、今後の学生生活や研究活動において、私にとって大切な財産になると感じています。

Voice 学生の声

医学科5年

井田 晴一朗さん
［群馬県立高崎高校出身］

東北大学に入学してから学んできたことは、私にとってかけがえのない財産です。1・2年次には基礎医学を集中的に学ぶ中で免疫学に興味を持ち、2年次から免疫学教室に配属させていただき、学部生として実際の研究に携わっています。学部生にも門戸を開き、早期から研究経験を積める環境は東北大学の大きな魅力です。また留学の機会も豊富で、3年次には米国NIHに留学させていただきました。初めての海外留学は視野を大きく広げ、将来を見つめ直す転機となりました。東北大学は志高く挑戦する学生を応援してくれる大学です。ぜひ有意義で充実した6年間を過ごしてください。

医学科6年

島田 莉名さん
［栃木県立
宇都宮女子高等学校出身］

豊富な留学制度があり国際的な視野を広げられる点や、最先端の治療や研究に触れることができる点に魅力を感じ、本学を志望しました。3年次にはNIHでの留学を経験し、6年次にはワシントン大学への留学の機会をいただきました。東北大学には、臨床修練や日々の学習を志の高い仲間と切磋琢磨できる環境があり、日々、良い刺激を受けながら成長することができます。また、研究室での活動などを通して、主体的に学ぶ力を身につけることができます。学生一人ひとりのやりたいことを応援し、挑戦を後押ししてくれる素晴らしい環境が整っています。ぜひ、皆さんと一緒に医学を学べる日を楽しみにしています。

Message 先輩からのメッセージ

東北大学病院

金 輝さん
［令和5年3月卒業］

「研究第一」と「門戸開放」を理念に掲げており、全国・全世界から集う志の高い仲間とともに医学を学べることに惹かれ、東北大学を志望しました。在学中の3年次の基礎修練では、研究室に在籍する多国籍の留学生たちと交流しながら発生学を学び、貴重な経験となりました。大学病院のある星陵キャンパスは、学生にとって充実した環境であることはもちろん、卒業してからも、最先端の医療、研究に基づいた臨床医学を実践する場として機能しています。研修医として働く中で、優秀な指導医にも恵まれ、その事実を日々実感しており、私にとっては拠り所のような存在です。ここ東北大学で、皆さんと共に切磋琢磨しあえることを期待しています。

東北大学病院

谷口 奈生さん
［令和6年3月卒業］

私が東北大学医学部を選んだ理由は、「研究第一」と「実学尊重」という理念のもと、医学を基礎から臨床、研究まで体系的に学べる環境が整っていると感じたからです。東北大学では、最先端の研究設備や多彩な研究分野に触れながら、医学的知識に加えて科学的思考力を養うことができます。カリキュラムの中で数か月間研究に集中できる制度は、他大学にはない大きな魅力です。
さらに、東北大学病院での初期研修では、たすき掛け制度を活用して市中病院と大学病院の両方を経験できます。コモンな疾患から希少疾患まで幅広く学べる点も、将来的に大きな強みになると感じています。

年間行事・カリキュラム予定

4 April
- 入学式・医学部入学者懇談会
- 看護学専攻ウェアセレモニー（保３年）

5 May
- 東北大学懇談会医学部分科会

7 July
- オープンキャンパス

9 September
- 放射線技術科学専攻
  ウェアセレモニー（保３年）
- 検査技術科学専攻
  ウェアセレモニー（保３年）

10 October
- 卒業試験（筆記）本試験（医６年）
- 大学祭　※川内キャンパス

12 December
- 東北大学・東北医科薬科大学
  合同慰霊祭・遺骨返還式（医２年）
- 臨床修練説明会・
  キャリアパス懇談会（医４年）
- 基礎医学修練発表会（医３年）

1 January
- マッチング説明会（医５年）
- 艮陵協議会加盟病院説明会

2 February
- 白衣式（医新５年）
- 退職教授最終講義

3 March
- 学位記授与式・学位記伝達式

医学部入学者懇談会

放射線技術科学専攻ウェアセレモニー

基礎医学修練発表会

白衣式

※日程および実施有無については変更になる場合があります

医学部 保健学科

看護学専攻 ｜ 放射線技術科学専攻 ｜ 検査技術科学専攻

School of Health Sciences

最新の知見に基づく保健医療の実践経験を通じ
人々の健康と社会を支えるヘルスサイエンスを創造する
人間性豊かな研究志向の人材育成を目指します。

教育理念

少子高齢社会の到来による社会状況や保健・医療を取り巻く環境の変化の中で、予防から健康管理までを一貫して考える総合医療が求められています。保健学科では、このような社会的要請に応えるために、人間性豊かで幅広い教養と確固たる倫理観を有し、かつ、科学的な知識と技術、そして冷静、緻密な総合判断力を備えた保健・医療専門職を育成します。また、人々の健康的な生活を支援するために、他の保健・医療等専門職と協働してチーム医療・チームケアを実践できる人材を育成します。

教育目標

リサーチマインドを備えたヘルスサイエンス(健康科学)を牽引する、高度専門職、教育者、研究者を育成する。

1. 人命を尊重し、豊かな人間性を持ち実践力を備えた医療人を育成します。
2. 人間としての生活の質(Quality of Life)の向上を大切にする医療人を育成します。
3. チーム医療を柱に、総合的に医療現場を支援する教育を行います。
4. 東北地方の地域性をも考慮した、地域医療をすすめる医療技術の教育を行います。
5. 医学系分野と有機的に連携しながら総合的な教育を行います。
6. 世界の人類に貢献しうる最先端の医療技術の教育を行います。

保健学科長　宮下 光令
Miyashita, Mitsunori

国際卓越研究大学にふさわしいヘルスサイエンスのリーダーを育成する

現代社会は、高齢化、生活習慣病の増加、新興感染症の脅威など、複雑で多様な健康問題に直面しています。本学は、国際卓越研究大学として、世界水準の研究・教育を通して、これらの問題に立ち向かい、人々の生活の質の向上に貢献できるヘルスサイエンスのリーダーを育成します。特に、豊かな人間性と倫理観を基盤に、リサーチマインドを備えたヘルスサイエンスを牽引する高度専門医療職者、教育者、研究者の育成を目指しています。これらの目標を達成するためには、高度化、複雑化する医療技術に的確に対処できる、科学的かつ深い専門知識が不可欠です。また、チーム医療を重視し、多職種連携を通して質の高い医療を総合的に提供することが求められます。これらの取り組みを通して、冷静かつ緻密な総合的判断力、優れた倫理観と豊かな人間性、そして社会的使命感を持ち、国際的にヘルスサイエンスの発展に寄与するとともに、地域医療にも貢献できる次世代のヘルスサイエンスリーダーを育成します。

医学部保健学科のカリキュラム・ポリシー（抜粋）

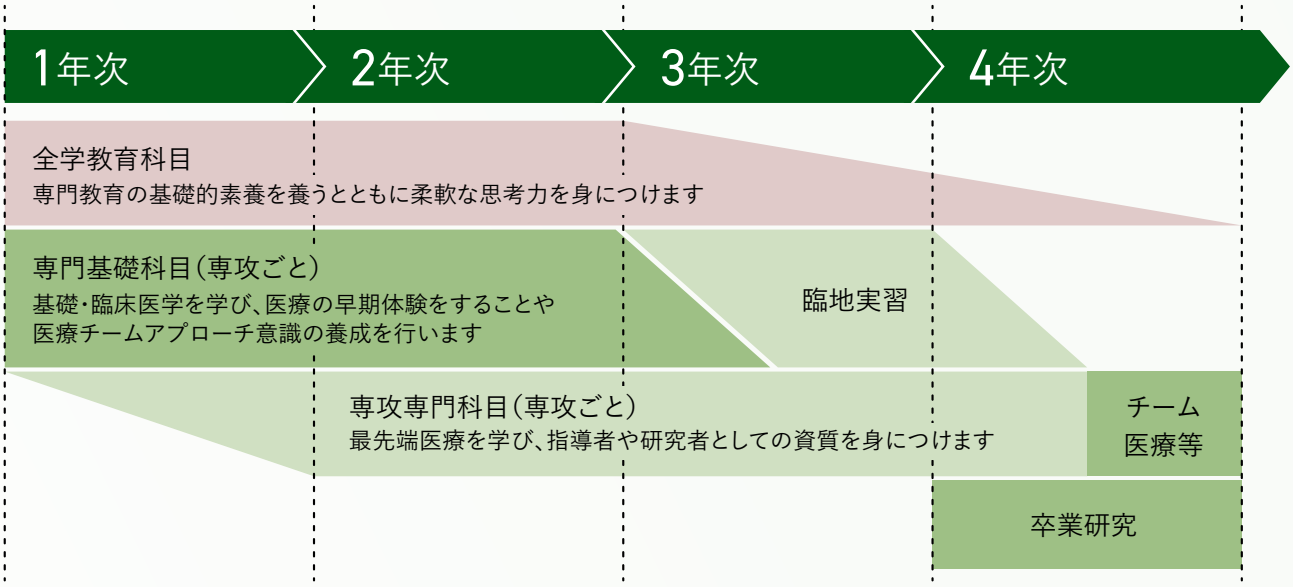
1 幅広い教養を修得するための全学教育科目を学ぶとともに、専攻の専門の基礎となる科目による動機づけ、専門の知識や技術の習得、臨地実習を通じた応用力の向上をはかる。

2 ライフサイエンス、ヒューマンサイエンスを探究する姿勢を尊重し、授業・実習、特に卒業研究によって研究マインドを涵養し、看護学、放射線技術科学、検査技術科学の実践力を備えた医療専門職業人・医療現場のリーダーとして活躍する能力を育成する。

3 学習成果の適正な評価と個別フィードバックを行い、学習者の内省・自己啓発と能力開発を促進する。

※全文は東北大学医学部ウェブサイトをご覧ください

カリキュラム（看護学専攻・放射線技術科学専攻・検査技術科学専攻）



卒業後 → 大学院進学 / 看護師 / 診療放射線技師 / 臨床検査技師 / 研究者

など

医学部保健学科のディプロマ・ポリシー

1 高度化、複雑化する医療技術に的確に対処しうる科学的かつ深い専門知識を有している。

2 科学的根拠に基づく看護学・保健学・臨床医学及び医療技術を実践し、他の保健・医療等専門職と協働してチーム医療・チームケアの一員として参加する能力を有している。

3 冷静、緻密な総合的判断の元に、優れた倫理観と豊かな人間性及び社会的使命感を持って保健・医療に貢献する能力を有している。

看護学専攻 Nursing

「ケア」の本質を追究する看護学の学習を深めます

21世紀は‘ケア’の時代といわれています。では看護が担う‘ケア’の本質とは何でしょうか？看護は、人々が潜在する能力を最大限に発揮し、自らの生活を健康的な生活に整えていく過程を支援する活動です。たとえ、死の際にあっても健康的な生活が実現できるように支援することなのです。また、看護は病院、学校、職場、施設、日常の暮らしの場と人々の生活のあらゆる場で実施されています。そのため看護職には深い人間理解と高度な見識が必要となります。看護学は、これらを支える科学の分野です。

1年次　幅広い教養が身につく

幅広い教養を得るために全学教育科目を学ぶとともに、生命の尊厳を理解し、対象の人権擁護の基盤としての看護の哲学と倫理観を身につけます。学習成果の適正な評価とフィードバックによって、学生の内省・自己啓発と能力開発を促進します。

2年次　看護の基礎を学ぶ

看護の基礎となる科目の学習を通して、専門知識を習得します。看護専門職者として優れた倫理観と豊かな人間性及び社会的使命感を持って保健・医療に貢献する基本的態度を学びます。また、リーダーシップ及びメンバーシップの役割を理解し、自己に課せられた責任を果たす態度を学びます。さらに、科学としての看護学を探究する姿勢を身につけるために研究の基礎を学びます。

3年次　知識と技術の基盤を作る

対象の特性に合わせて身体・心理・社会的ニーズを判断し支援するうえでの必要な知識・技術・態度を専門領域ごとに学びます。看護に関する様々な問題を正しくとらえて解決するための基本的な能力を身につけます。特に3年次からは現場での臨地（病院）実習が始まります。これらを通して社会の変動に伴うヘルスニーズを見極め、対象や地域の特性に応じた看護の役割を理解し、継続看護を提供できる能力を身につけます。

4年次　科学的かつ深い専門知識の習得

高度化、複雑化する医療技術に的確に対処しうる科学的かつ深い専門知識を得ながら、科学的根拠に基づく看護を実践し、他の保健・医療等の専門職と協働してチーム医療・チームケアの一員として参加する能力を身につけます。そして、卒業研究によって研究マインドを育み、看護学の実践力を備えた医療専門職業人・医療現場のリーダーとして活躍できる能力を身につけます。さらに、看護職者として自己評価ができ、自ら学習を継続し専門職業人として生涯成長しつづけていくことを学びます。

放射線技術科学専攻 *Radiological Technology*

安全・正確・高精度な放射線技術へ 可能性は広がり続けます

放射線医療には画像診断、核医学、放射線治療の3つの領域があり、超音波・磁気・X線・放射性同位元素によって人体の内部を画像化し診断すること、疾患部を放射線によって治療することを行っています。放射線医療は安全で正確かつ高精度に施行されることが絶対条件であり、その基盤となる学問が放射線技術科学です。放射線技術科学は医学と放射線の基礎から医療機器の理論、診断画像の撮影および構築法、放射線治療および生物学、放射線計測法および管理など広範囲な学問領域からなります。

1年次　幅広い教養を習得し人間性を深める

1年生では主に幅広い教養を修得するための全学教育科目を学びます。これにより人間性を深め、将来医療、医学の現場で活躍するための土台を構築します。加えて専門教育への橋渡しとしての専門基礎科目も学びます。これによりシームレスに基礎学問から応用学問の習得を進めることができます。

2年次　一般教養から専門への橋渡し

診療放射線技師が扱う放射線などは物理学の法則に基づいています。また、放射線機器を知るためには工学の知識が必要になります。この放射線機器を扱い、医療に携わるためには、医学・生物学の知識も必要です。この観点から、2年次では理学、工学、医学の基礎を学び、3年次以降のより専門的な教育へスムーズに橋渡しを行います。

3年次　幅広い専門知識とその実践を学ぶ

3年生では放射線技術学の専門知識をさらに深めます。後期からは、数名のグループに分かれ、東北大学病院や近隣病院で臨地（病院）実習を行います。臨地実習を通して、講義や実験等で修得した基礎知識を医療の現場でどのように適用し応用すべきかを学ぶとともに、最先端の診療技術や患者さんの接遇について実体験します。最先端機器を実際の目で見る貴重な機会であるとともに、診療放射線技師の社会的役割を認知し、患者さんや医師および他のメディカルスタッフ等との関わりに関しても間近に接することができる良い機会です。

4年次　研究マインドを身につける

4年生の前期は、3年生に引き続き病院実習が行われます。それと並行して、7分野に分かれて卒業研究が始まります。卒業研究では、研究の一端に触れることで研究マインドを身に着けます。将来、放射線技術科学の指導者や教育者並びに研究者として、当分野を支え得る質の高いすぐれた人材の育成を目指します。例年、11月下旬頃に卒業研究発表会が開かれ、研究成果を皆の前で発表し、活発な質疑応答が行われます。研究の一端に触れることはもちろん、発表の技術を身につけることも卒業研究の重要な目標の1つです。

検査技術科学専攻 *Medical Technology*

病気の原因・治療方法を判断するための先端技術を学びます

臨床検査全般に関する学問領域です。現在の医療において、検査は診断・治療の指針となる重要なデータを提供しています。生体成分の質的・量的変動を捉える化学検査、体内に侵入した病原菌・ウィルスを特定する病原検査、組織や細胞の形態的変化を捉える病理検査、生体の活動を直接捉える生理検査や画像検査、輸血・移植領域で欠かせない免疫学的検査などがあり、これら検査法の開発・応用や病態との関連を解析するなどの研究を行います。

1年次　専門教育へ向けた基盤づくり

人間性豊かで幅広い教義と優れた倫理観、深い専門知識を有する臨床検査技師の育成へ向けた学習の第一歩を踏み出します。特に、東北大学共通の全学教育を学ぶことで幅広い教養と柔軟な思考力を身につけ、専門教育の早期開始により専門知識修得へ向けた動機付けを行います。

2年次　週の大半が専門教育科目に

専門教育科目の授業が本格化し、生活の主体は星陵キャンパスに移ります。1年次に学習した全学教育科目の知識をスタートラインとして、より専門的な新しい知識と出会う毎日です。実習科目も開始され、「検査」を体感しながら技術を身につけ、知識を整理してゆきます。臨地（病院）実習に行くための基礎作りの学年です。また、検査の確かな腕を身につけるため、そして講義で学んだことを実際に体験して理解を深めるために、多くの実習があります。3年次の臨地実習、4年次の卒業研究に向けて実験の進め方や結果に対して論理的に考察することを身につけます。

3年次　専門教育科目の総仕上げ

3年次は、学内実習が中心の前半と臨地実習が中心の後半に大きく分けられます。前半の半年間は午前に講義、午後に実習を行い、後半の臨地実習に向けて知識と技術をまとめます。そして後半が臨床の現場を体験する臨地実習になります。この実習を通じて臨床検査技師という職種が病院という組織の中で果たしている役割を学びます。そして、自分が大学で学んできた知識と技術がどのような意味を持ち、どのようなことに役立つのかを肌で感じることができます。このような経験を通して、卒業後の自分の進路を考えていくことになります。

4年次　充実した研究活動ときめ細かな国家試験対策

卒業研究では、4月～11月まで8か月間にわたり、専攻内の各分野に加え、大学病院・医学科・加齢研などの様々な研究室に配属され、充実した研究生活を送ります。卒業研究で研究の面白さに目覚め、大学院博士前期課程（修士）に進学する学生さんも数多くおられます。また、並行して、学内で数回にわたり臨地実習筆記試験・国家試験模擬試験を行うことに加え、試験直前には国家試験問題講習会を行い、きめ細かな国家試験対策を行います。

Voice 学生の声

看護学専攻4年

阿部 結さん

［宮城県仙台第二高等学校出身］

看護学だけでなく研究や国際交流にも力を入れており、視野を広げながら学べる環境だと感じ、入学しました。臨地実習では患者さんと関わりながら、より実践的で質の高い看護の視点を学ぶことができました。私自身、志の高い仲間との出会いや留学への挑戦を通して、自分の視野が広がったと感じています。皆さんもこの充実した環境で仲間と共に看護を学び、自分の可能性を広げてみませんか。

看護学専攻4年

山本 和音さん

［宮城県佐沼高等学校出身］

元々興味のあったウィメンズヘルス看護学分野の研究内容を見て、この先生方から直接学びたいと思い入学を決めました。看護学専攻にはそれぞれの分野を牽引する先生方がいらっしゃいます。また、臨床や行政機関などでご活躍されている医師や看護職から講義を受ける機会もあり、視野を広げることができます。皆さんも、多くの人と出会い、幅広い知識を得られる本学で看護を学んでみませんか。

放射線技術科学専攻4年

佐々木 和花さん

［新潟県立長岡高等学校出身］

体内の様子を画像化する技術に惹かれ、診療放射線技師を目指し入学しました。理学・工学・医学と学びは幅広く大変な面もありますが、講義や実習で臨床や研究の最前線に触れるたび、入学前の想像を超えて好奇心を刺激される毎日です。刺激の多いこの環境で、私も理想の医療人を目指して日々学んでいます。皆さんもぜひ、ここで自分の「おもしろい」を探してみてください。

放射線技術科学専攻4年

江田 侑真さん

［福島県立白河高等学校出身］

中学生の頃に診療放射線技師という職業に興味を持ち、本専攻に進学しました。本専攻では、放射線技術の基礎から最先端の研究まで、第一線で活躍する先生方のもとで学ぶことができます。同じ志を持つ仲間と、仙台という地で充実した学生生活を送れることも魅力です。将来は学びをいかし、画像診断装置の開発に携わりたいと考えています。皆さんも東北大学で放射線技術を学びませんか。

検査技術科学専攻4年

松島 花穂さん

［静岡県立浜松西高等学校出身］

臨床検査技師になるための知識を習得できるだけでなく、研究にも力を入れている本専攻に魅力を感じ志願しました。様々な領域の先生方から専門的な講義を受講できるとともに、臨地実習では検査技師として働く方々からこれまで学んだ知識が現場でどのようにいかされているのかを学ぶことができました。大学院進学後、皆さんと患者さんのためになる臨床検査技師になれる日を楽しみにしています。

検査技術科学専攻4年

櫻野 萌絵さん

［岩手県立
黒沢尻北高等学校出身］

臨床現場で実際に働く先生方の講義を受けられることや、最先端の研究環境で興味のある分野を深く学べる点に魅力を感じ、本専攻を志望しました。臨地実習では、講義で学んだ知識が臨床でどのようにいかされているのかを技師の方々が丁寧に教えてくださり、非常に貴重な経験を積むことができました。ぜひオープンキャンパスなどで、本学ならではの学びの雰囲気を感じてみてください。

Message 先輩からのメッセージ

東北大学病院

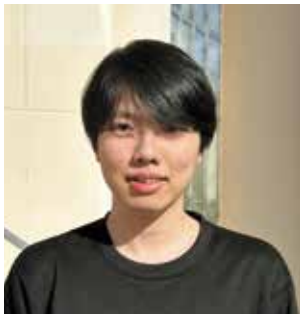
菅原 美歩柚さん
［令和8年3月卒業］

看護学専攻では、講義で基礎知識を学ぶだけでなく、グループワークを通して様々な意見を出し合い、自分の考えを深め、多角的に物事を考える力を身につけることができました。実習では、これまで学んだ知識をいかしながら実際に患者さんと関わり、看護のやりがいや責任、個別性を意識したケアの重要性を学びました。また、研究室では関心のある分野について先生や大学院生の方々に指導していただきながら、主体的に学び、自ら考えて行動する力を養うことができました。今後は、根拠に基づいたケアを実践し、患者さんの生活の質を高められる看護師を目指して努力していきたいです。ぜひ皆さんも、本学で高い目標を持つ仲間とともに、看護学を学んでみませんか。

東北大学病院

阿部 真夢夏さん
［令和8年3月卒業］

講義や演習では看護の基礎となる知識や技術を学び、実習を通して試行錯誤しながら患者さん一人ひとりに応じた看護を実践しました。また、私は4年間を通して学友会吹奏楽部に所属し、授業や実習との両立に取り組みました。忙しい日々の中でも仲間と支え合いながら学び続けた経験や、学部生の間から本格的なゼミへの参加や研究活動を行えたことは大きな自信となっています。今後は、緩和ケアやがん看護の分野に携わり、専門性を高めながら、患者さんの思いに寄り添う看護を提供したいと考えています。東北大学には多様な経験を持つ先生方の下で、志の高い仲間から刺激を受けながら主体的に学び、成長できる環境があります。皆さんも将来の目標に向けた第一歩を踏み出してみませんか。



東北大学大学院
医学系研究科

木村 朗大さん
［令和8年3月卒業］

放射線技術科学専攻では、基礎医学から放射線機器学、撮影技術学、放射線治療学まで、幅広い専門領域を講義や実験を通して学ぶことができます。３年次後期からは、東北大学病院や近隣病院における臨地実習が始まります。少人数のグループで臨床現場を経験し、専門的な知見や患者さんへの接遇を深く習得できる点が魅力です。４年次には、臨地実習と並行して最先端の知見に触れる卒業研究を行い、探求心や研究マインドを培います。私は将来研究を通して得られる課題解決力を臨床の現場で発揮し、診療放射線技師として質の高い医療の提供に寄与したいと考えています。皆さんもぜひここでしか得られない経験と知識をもとに、放射線の専門家として自らの可能性を広げてみませんか。

東北大学大学院
医学系研究科

泉田 和奏さん
［令和8年3月卒業］

検査技術科学専攻では、1年次から3年次前期にかけて講義や学内実習を通して臨床検査に関する専門性を養い、3年次後期には病院で臨地実習を行います。4年次には卒業研究として最先端の医学研究に取り組みます。 臨床検査技師に必要な知識や技術を学べるだけでなく、本格的な研究に取り組む機会に恵まれている点が、本専攻の大きな魅力です。その環境から研究の面白さに魅了される学生も多く、卒業後は大半の学生が大学院へ進学しています。臨床検査技師として医療現場で活躍することはもちろん、アカデミックな方面から医療に関わる道も開かれています。医療との関わり方は多岐にわたります。ぜひ本専攻で、将来の可能性を広げてみませんか。

進路 Career Path

就職だけでなく、大学院に進み、研究者への道を選ぶ卒業生も多くいます。

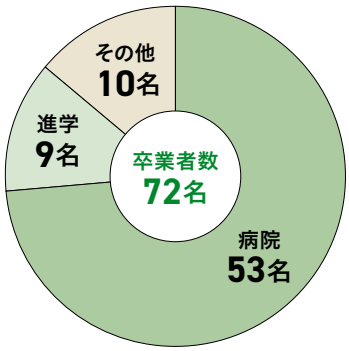
看護学専攻

在籍者数（令和8年4月1日現在）

285名（男20／女265）

学年	男女別	計
1年	男 3／女66	69
2年	男 4／女71	75
3年	男 4／女68	72
4年	男 9／女60	69

進路別割合（令和8年4月1日現在）



主な就職先

宮城県　東北大学病院
宮城県　仙台厚生病院
東京都　東京大学医学部附属病院
東京都　聖路加国際病院
愛知県　名古屋市立大学病院
など

主な進学先

宮城県　東北大学大学院医学系研究科
など

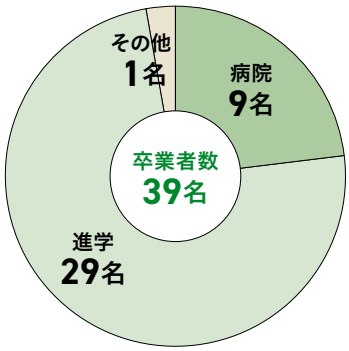
放射線技術科学専攻

在籍者数（令和8年4月1日現在）

155名（男75／女80）

学年	男女別	計
1年	男19／女19	38
2年	男17／女23	40
3年	男21／女18	39
4年	男18／女20	38

進路別割合（令和8年4月1日現在）



主な就職先

宮城県　東北大学病院
宮城県　仙台市立病院
宮城県　仙台赤十字病院
福島県　星総合病院
群馬県　群馬大学医学部附属病院
など

主な進学先

宮城県　東北大学大学院医学系研究科

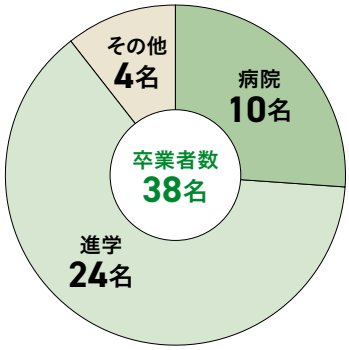
検査技術科学専攻

在籍者数（令和8年4月1日現在）

152名（男39／女113）

学年	男女別	計
1年	男 7／女31	38
2年	男 7／女30	37
3年	男12／女25	37
4年	男13／女27	40

進路別割合（令和8年4月1日現在）



主な就職先

宮城県　石巻赤十字病院
宮城県　岩切病院
宮城県　坂総合クリニック
青森県　十和田市立中央病院
など

主な進学先

宮城県　東北大学大学院医学系研究科
宮城県　東北大学大学院医工学研究科
など

修学費と奨学制度【医学科・保健学科】

諸費用

学部・大学院の諸費用は下記のとおりです。

諸費用（令和7年度）	検定料	入学料	授業料
学部学生	17,000円	282,000円	535,800円／年
大学院学生	30,000円	282,000円	535,800円／年
研究生（学部・大学院）	9,800円	84,600円	29,700円／月
科目等履修生	9,800円	28,200円	14,800円／単位
特別聴講学生	― 円	― 円	14,800円／単位
特別研究学生	― 円	― 円	29,700円／月

※学部学生及び大学院学生の授業料は、年額です。
※科目等履修生及び特別聴講学生の授業料は、1単位に相当する授業についての額です。
※特別研究学生の授業料は、月額です。

日本学生支援機構等による奨学金

学業成績及び家計状況などの書類審査を経て候補者が推薦されたのち、奨学生としての採用が決まります。

日本学生支援機構等による貸与奨学金（月額）

第一種（無利子）		
学部	自宅通学	自宅外通学
	45,000円	51,000円
	30,000円	40,000円
	20,000円	30,000円
		20,000円
大学院	修士課程	博士課程
	50,000円	80,000円
	88,000円	122,000円
第二種（有利子）		
学部	20,000円から120,000円の間で1万円単位で希望額を選択	
大学院	修士・博士ともに50,000円、80,000円、100,000円、130,000円、150,000円から希望金額を選択	

日本学生支援機構等による給付奨学金（単位：円/月額） ※学部生のみ

世帯の所得金額に基づく区分	自宅通学	自宅外通学
第Ⅰ区分	29,200円	66,700円
第Ⅱ区分	19,500円	44,500円
第Ⅲ区分	9,800円	22,300円

日本学生支援機構による奨学金の他に、都道府県等の地方公共団体、民間事業団体、個人の奨学財団等による奨学生の募集があります。学部等の推薦を受けて申し込み、採用の場合は貸与を受けることができます。（本人が申請する場合もあります。）

奨学生募集地方公共団体（令和7年度）

青森県、岩手県、秋田県、山形県、福島県、いわき市、新潟県、千葉県、茨城県、長野県、山梨県、静岡県、三重県、京都府、愛媛県など。

奨学生募集民間財団等（令和7年度）

ピジョン奨学財団、川野小児医学奨学財団、みずほ育英会、亀井記念財団、G-7奨学財団、新津記念医学教育奨学金、中村積善会、キーエンス財団、似鳥国際奨学財団など。

授業料免除・徴収猶予・分納

経済的な理由により授業料を納付することが困難であり学業成績が優秀な者は、選考により免除（全額又は半額）されることがあります。また、期限までに納付することが困難な場合には、徴収猶予・月割分納の制度もあります。

授業料・入学料免除状況（令和7年度）（人） ※東日本大震災に伴う経済支援を含む

	授業料免除						入学料免除			
	前期分			後期分			学部	大学院		計
	学部	大学院	計	学部	大学院	計		前期	後期	
出願者数	294	189	483	271	187	458	70	20	4	94
全額免除者数	233	157	390	218	159	377	61	8	0	69
2/3免除者数	19	0	19	14	0	14	6	0	0	6
半額免除者数	1	28	29	2	26	28	0	0	0	0
1/3免除者数	8	0	8	10	0	10	1	0	0	1
1/4免除者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
不許可者数	33	4	37	27	2	29	2	12	4	18

褒賞制度

賞の名称	対象学生	令和7年度人数（人）
医学部学生奨学賞	医学科学生	7
海外留学奨学援助制度	医学科3年、6年	12

医学部内の教育・研修施設 Education and Training facilities

附属図書館医学分館

約10万冊の図書、約1万5千タイトルの雑誌を所蔵し、医学系研究科・医学部、歯学部、および東北大学病院などに所属する学生・教職員を対象に、医学関連の専門図書館としての役割を担っています。また、電子ジャーナルや電子ブックも充実しており、医中誌webやPubMed、メディカルオンラインなど幅広くアクセスすることができます。2020年に全面的な改修工事を行い、感染対策の施された個別ブースの学習スペースや、グループ学習室が充実しています。

クリニカル・スキルスラボ

クリニカル・スキルスラボでは、シミュレーターなどを使用して実際の医療現場を模した疑似環境を提供し、医学部生・医師・看護師等の臨床技能教育を安全かつ効果的に行うことができます。臨床現場を反復して再現でき、臨床技能習得のレベルを上げるとともに、学習へのモチベーションを高める効果もあり、教育的有効性は非常に高いことが知られています。また本ラボでは、実技教育を行うだけではなく、ハーフミラーを設置し医療面接でのコミュニケーション能力向上に特化した、医療面接室なども用意しています。

6号館グループ学習室

6号館は2014年に隣の東北メディカル・メガバンク棟と合わせ完成した建物です。この建物の1階には10人程度が収容できるグループ学習室が16部屋用意されています。授業以外では、国家試験や定期試験などの試験対策や医学祭の準備などをグループ内で行う際によく利用されています。

星陵会館

2015年医学部開設百周年記念ホールの完成に合わせ、隣接する学生・教職員の福祉会館である星陵会館もリニューアルしました。この中には書籍も取り扱う売店や食堂が出店しています。この施設内にはピロティや学生利用が可能なスペースがあり、学生同士のコミュニケーションの場ともなっています。2階には開放式のピロティや大小の会議室があり、学生企画のイベントに利用することができます。

クラブ・サークル活動 Club and Circle activity

東北大学全体のクラブ・サークルとは別に、医学部独特のクラブ・サークルがあります。
医学部の学生は実習時間が多く、毎日十分な練習時間がとれないことから、医学部だけのサークルに入る学生が多いようです。このようなサークルは各医学部・医科大学にあり、特に体育系サークルでは、東日本の大学を集めた専用の大会(東日本医科学生総合体育大会)があります。

クラブ・サークル活動についての詳細はこちらから

体育系サークル

- 陸上競技部
- 水泳部
- ラグビー部
- サッカー部
- 男子バスケットボール部
- 女子バスケットボール部
- バレーボール部
- 準硬式野球部
- 軟式庭球部
- 硬式庭球部
- 卓球部
- バドミントン部
- 柔道部
- 剣道部
- 弓道部
- スキー部
- ヨット部
- 漕艇部
- ワンデルング部
- ゴルフ部
- フットサル部
- ビリヤードサークルSCRATCH
- ハンドボール部
- バーベルクラブ

文化系サークル

- 星陵アンサンブル
- 保健部セツルメント
- 東洋医学研究会
- 写真部
- 艮陵新聞部
- 軽音楽部
- 星陵混声合唱団
- 救命救急サークルRet's
- 鉄道愛好会
- 医学祭実行委員会
- 茶道部
- 臨床推論サークルTeam COOL
- 国際交流サークル I Health
- 囲碁将棋部
- 学生会運営委員会

入試情報【 医学科・保健学科 】

入学試験実施状況（令和８年度実績）

一般選抜（前期日程）	医学科	保健学科		
		看護学専攻	放射線技術科学専攻	検査技術科学専攻
募集人員	78	48	23	23
志願者	311	86	55	60
第１段階合格	273	86	55	60
受験者	251	76	46	47
合格者	80	49	25	24
入学者	76	44	24	23

AO入試Ⅱ期	医学科	保健学科		
		看護学専攻	放射線技術科学専攻	検査技術科学専攻
募集人員	15	12	4	4
志願者	163	39	21	21
第１次選考合格	55	24	9	8
受験者	55	24	9	8
合格者	18	14	4	4
入学者	18	14	4	4

AO入試Ⅲ期	医学科	保健学科		
		看護学専攻	放射線技術科学専攻	検査技術科学専攻
募集人員	12	10	10	10
志願者	125	22	24	26
第１次選考合格	36	20	19	19
受験者	36	20	18	18
合格者	13	11	10	11
入学者	13	11	10	11

地域枠入試	医学科	
	宮城県枠	岩手県枠
募集人員	7	2
志願者	28	6
第１次選考合格	15	5
受験者	15	4
合格者	7	2
入学者	7	2

国際バカロレア入試	医学科	保健学科		
		看護学専攻	放射線技術科学専攻	検査技術科学専攻
募集人員	3※	—	—	—
志願者	4	—	—	—
第１次選考合格	0	—	—	—
受験者	0	—	—	—
合格者	0	—	—	—
入学者	0	—	—	—

帰国生徒入試	医学科	保健学科		
		看護学専攻	放射線技術科学専攻	検査技術科学専攻
募集人員	3※	—	—	—
志願者	7	—	—	—
第１次選考合格	0	—	—	—
受験者	0	—	—	—
合格者	0	—	—	—
入学者	0	—	—	—

私費外国人留学生入試	医学科	保健学科		
		看護学専攻	放射線技術科学専攻	検査技術科学専攻
募集人員	3※	若干人	若干人	若干人
志願者	3	0	1	0
受験者	2	0	1	0
合格者	0	0	0	0
入学者	0	0	0	0

※合わせて３名

募集人員

	医学科	保健学科		
		看護学専攻	放射線技術科学専攻	検査技術科学専攻
一般選抜（前期日程）	75	48	23	23
AO入試Ⅱ期	15	12	4	4
AO入試Ⅲ期	12	10	10	10
国際バカロレア入試	合わせて3	—	—	—
帰国生徒入試		—	—	—
私費外国人留学生入試		若干人	若干人	若干人
計	105	70	37	37

試験科目

	医学科	保健学科
一般選抜（前期日程）	大学入学共通テスト 数学・理科・外国語・面接（小作文含む）	大学入学共通テスト 数学・理科・英語・面接
AO入試Ⅱ期	筆記試験・面接	筆記試験・面接
AO入試Ⅲ期	大学入学共通テスト 筆記試験・面接	大学入学共通テスト 筆記試験・面接
国際バカロレア入試	筆記試験・面接	—
帰国生徒入試	筆記試験・面接	—
私費外国人留学生入試	面接	学力試験・面接（看護学専攻は面接のみ）

出身県別入学者数（令和８年度実績）

地区		医学科	保健学科		
			看護学専攻	放射線技術科学専攻	検査技術科学専攻
北海道・東北	北海道	6	2	1	1
	青森	4	5	1	2
	岩手	2	6	4	5
	宮城	19	24	11	9
	秋田	1	1	3	5
	山形	3	5	1	1
	福島	3	4	3	2
関東		48	15	9	3
中部		17	6	4	0
近畿		6	0	0	0
中国		1	1	0	0
四国		2	0	0	0
九州・沖縄		3	0	1	0
その他・外国の学校等		1	0	0	0
計		116	69	38	38

今後の入試の変更点

詳しくは東北大学アドミッション機構のウェブサイトをご確認ください。
https://admissions.tohoku.ac.jp/ja/

OPEN CAMPUS

医学部
オープンキャンパスの
詳細はウェブサイトから
ご確認ください

https://www.med.tohoku.ac.jp/admission/seminar/oc/

1 放射線技師クイズ　2 救急医療スキル体験
3 模擬講義　4 エコー操作体験　5 外科医スキル体験

オープンキャンパスでは、「研究室ツアー」や「模擬講義」、「キャンパスツアー」、「医療スキル体験」など多彩なプログラムを実施します。受験の疑問に直接お答えする「入試相談会」、現役医学部生と交流できる「学生と語ろう」も開催します。皆さまのご参加をお待ちしています。

ACCESS

仙台市営バス利用	JR 仙台駅西口バスプールから乗車 「東北大学病院前」下車（乗車時間 約 20 分）
仙台市営地下鉄利用	地下鉄南北線仙台駅から泉中央方面行きに乗車 「北四番丁駅」下車（乗車時間 約 5 分）、 北 2 出口より徒歩約 15 分

東北大学医学部

〒980-8575　宮城県仙台市青葉区星陵町 2-1

医学科

TEL　022-717-8009（教務課学部教務係）
FAX　022-717-8021
E-mail　med-kyo2@grp.tohoku.ac.jp

保健学科

TEL　022-717-7905（教務課保健学科教務係）
FAX　022-717-8191
E-mail　cms-kyom@grp.tohoku.ac.jp

東北大学大学院医学系研究科・医学部ウェブサイト
https://www.med.tohoku.ac.jp/

東北大学大学院医学系研究科
@tohoku_univ_med

東北大学大学院医学系研究科・医学部
@Tohoku.University.School.of.Medicine

東北大学医療系メディア「ライフ」ウェブサイト
https://www.life.med.tohoku.ac.jp/